

廣島市歌

矢田部藤吉作歌
納所辨次郎作曲

第一章

天正年間 豊元公

廣島城を築きしが

福島淺野と 世はかはり

王政復古の 御代に遇ひ

藩は廢れて 縣となり

始めて市制は 布かれぬ

第二章

千田貞睦 知軍の時

經營慘酷 六星霜

宇品港の 成りしより

頼に海陸 聯絡し

中國樞要 地となりて

輸送は日々 増さり殆

第三章

日清役の 策源地

大艦これに 進められ

勝を千里に 決したる

大本營の 跡は此處

金龜の塔の 影高く

千歳不磨の 紀念なり

第四章

日露の役の 其折も

第五師團の 武夫は

同じく宇品を 拔擢し

北海原野の 勇戦に

たけひ狂ひし 荒鷲も

遂に翼を 收めけり

第五師團ノミカ出征セシトヤ

第五章

嗚呼賑はしき 廣島市

人口十有 五萬人

家屋は鱗と 重なりて

商工業者も 數多し

中國無比の 大都會

嗚呼賑はしき 廣島市

廣島市歌

2
4

1. 1 1 5. 5 | 3. 3 1. 1 | 5. 5 3. 1 | 2. 0 |

1. タン レウ テンカン タルモト コ

2. センダ タダアキ タロノト キ

3. 3 2 1 | 6. 1 5. 5 | 1. 1 2. 2 | 3. 0 |

ヒロシマ ワウア - キブキレガ

タイニイ ナンタン ロクセイ ナ

5. 5 3. 4 | 5. 5 3. 4 | 5. 5 6. 6 | 5. 0 |

フタレマ アサノト ヨハカハ ヲ

ウーロナ ミナトノ ナラシヨ ヲ

5. 5 6. 5 | 3. 3 1. 2 | 3. 3 2. 2 | 1. 0 |

フウセイ フタコノ イヨニア ク

ニハカニ カイリク レンラタ シ

2. 2 5. 5 | 6. 6 5. 5 | 1. 1 2. 2 | 3. 0 |

ハンバー スタレタ ケントナ ヲ

チウゴク スウエウ チトナラ ヲ

5. 5 6. 5 | 3. 3 1. 2 | 3. 3 2. 2 | 1. 0 ||

ハロメタ シセイハ レカレケ ヲ

ユソウハ ヒビユ - マサラケ ヲ

小引

わのれ廣島市歌をものせんと志し、は久しき昔なるを漸く業務の餘暇淺學をもちかへりみす五章の歌様のものを綴り試みぬ讀者幸ひに教導添削の勞を垂れたまはらんことを昨年中國藝備紙上の公表に遇ひし後は大方諸彦より過分の稱贊を辱ふし特に學習院教授納所辨次郎氏より佳調の曲譜を贈與せられしは深く同氏に感謝する所なり

因に記す 毛利輝元公の廣島に來られしは天正十九年四月(西歴千五百九十一年五月二十三日)より六月二十日頃今を去る參百貳拾年

明治四十五年一月

廣島市壙屋町

やたへ齒科専門醫院に於て

矢田部 藤吉 誌

明治四十五年二月九日印刷
 明治四十五年二月十六日發行
 定價三錢

廣島市壙屋町四十九番地
 作歌者兼 發行人 矢田部 藤吉

東京市赤坂區丹後町拾壹番地
 作曲者 納所 辨次郎

廣島市壙屋町二十一番地
 印刷人 増田 直吉

印刷所 廣島市壙屋町十二番地
 増田兄弟活版所

